

私たちの活動や意見を仲間で共有します。
会費は県と日本平和委員会の活動も支えます。

土浦平和の会ニュース

2020年8月15日 第342号

発行：土浦平和の会

事務局：土浦市烏山2-530-296

HP://heiwatutitira.web.fc2.com/

夏の平和行事

2020「原爆と人間展」に650人

連日の猛暑の中、「2020原爆と人間展」(8/6~9)が無事終了しました。

今年はコロナウイルス禍により、恒例のピースデーは中止、さらに、原爆絵画・写真の展示も期間4日(去年は6日間)と短縮で行われました。期間中の来場者数は650人(去年1,449人)、署名はヒバクシャ署名が41筆、少人数学級を求める署名が56筆、改憲反対署名が13筆でした。

スタッフからは「家族づれなど、時間をかけてじっくりと鑑賞していく人が多かった」「核兵器禁止条約に背を向ける安倍首相への怒りを声にする人が数人いた」など報告されました。

《感想ノート》につづられた平和への願い

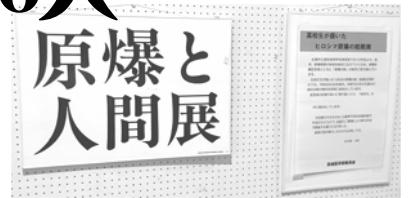
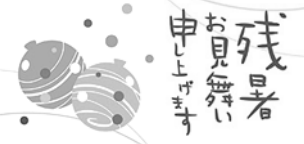
■基町高校の生徒さんたちが被爆者から被爆の実相を聞き、想像力を発揮して描かれた原爆の絵画は見る者に「被爆」そのものをしっかり伝えるものになっています。今日は6日、NHKで松井市長のあいさつ、子供代表の訴えのあと、おなしい首相の「残酷なあいさつ」を聞いた。午後この場に立てて、私にとっての8・6となりました。心から原爆展の開催にお礼を。

■広島市にて在職中、通勤の市内電車中にて被爆された中年の女性の方の姿を直視できず視線をはずしていた自身を、今はずかしく思い、今日は本展示コーナーに来ました。二度とあのような戦争をしないでほしいと思う次第です。

■本日58回目の誕生日をむかえました。90才と86才の両親の介護と、介護福祉士として特養の現場で働いています。自然の力にはおよばない無力ですが、人間として、地球に生きる生物のひとつである人間が決してしてはならないこと。戦争やテロ。命を大切に生きていこうと思いました。高校生が証言をもとに描いた絵、高校生の感性に涙があふれ出ました。今日も一日、心穏やかに過ごせますように。

■今の高校生が描いた絵は“静か”です。静かに、たいらかに伝わってくるものがあります。今までの有名な絵画(原爆の絵)とは違う確かさがあり、伝わるものがあると感じました。

(裏面に続きます)



高校生の絵に見入る

持ち寄り資料も展示



くいているようにパネルを見つめる

5000羽以上の折り鶴届く

5000羽以上の折り鶴を届けてくださった方がいました。糸を通して広島市に送り、原爆の子の像に奉納したいと思えます。

お願い “糸通し” ボランティア募集

糸通しのボランティアを募集します。糸は裁縫の太めの糸を2本通して、長さ1.5メートル以内に収めていただきます。期限は特に設けません。よろしくお願ひします。

連絡先:090-6718-7755(高橋)



《感想ノート》つづき

■改めて戦争の悲惨さと残酷さを痛感し、広島、長崎をもっともっと世界に訴えていかななくてはと思いました。

■（展示されている絵を）核保有国の人々にも見て貰えるよう、複製画をつくり、恐ろしさをPRしていただきたいと思います。原爆はこの世からなくす努力をしていただきたい。

■戦争の悲惨さが思われる。ただ、原爆とか兵器の排除だけがいわれているが、戦争のない世界の実現をテーマにした活動が必要ではないでしょうか。

■高校生の絵は写真よりリアルで胸にせまってきました。3歳ぐらいの子どもが布にふくませた泥水をのませてもらって「ありがとう・・・」と見ず知らずの人に抱かれて息を引きとったという。一枚一枚の絵に被爆者のおもいが伝わってくる。戦争は、核兵器は生きとし生けるもの、かけがえのない地球を破滅させる。

■署名をしてくれた男性の祖父母の体験。満州からの引きあげの船の中で、祖父がアメリカの悪口をいっていたのを他の米兵が聞いていて、射殺しようとしたのを祖母が立ちはだかって、私を殺してくれとって助かった、との話を聞いた。戦争は残酷だ。

■教育者として責任を持って伝えていきます。

（紙面の関係で一部のみ掲載しました）

8・15平和のつどい 土浦

I(アイ)–新聞記者ドキュメント 上映会終わる

75年目の終戦記念日の8月15日、新装の市民会館（新名称ワタヅックホール土浦）で「平和のつどい」（実行委員会主催）が行われ「I(アイ)新聞記者ドキュメント」（森達也監督と望月衣塑子記者）が上映されました。猛暑について140名が鑑賞しました。



7/28 土浦市、ゼロカーボンシティ宣言 2050年二酸化炭素排出実質ゼロに向け

今年6月に土浦平和の会が安藤市長宛に提出した要望書（前号で報道）において、「気候変動問題での取り組み」を求めていました。これに対する市の回答書では、これまでの取り組みを紹介すると共に、「ゼロカーボンシティ」への検討を表明していました。

このほど市は、関東地域の他の市町村と共に「ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。市のホームページで詳しく紹介されています。

ゼロカーボンシティとは？

2015年に合意されたパリ協定では、「産業革命前からの世界の平均気温上昇を2℃未満に抑え、可能ならば1.5℃未満に抑える努力をする」との目標が国際的に広く共有されました。

環境省では、こうした目標の達成に向け、2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることを目指す旨を首長自らが公表した地方自治体を「ゼロカーボンシティ」として国内外に広く発信するとともに、全国の自治体へ表明を呼び掛けています。

1983年、アメリカの名優ダスティン・ホフマンさんが来日した時、記者会見で「アメリカを代表して「申し訳ありませんでした」と言いたい」と語りました。

「アメリカは広島と長崎に原爆を落としたことは知っているが、それが何をもたらしたかは知らない。街を破壊し灰にしたことは知っているが広島の前爆以前に日本の半分が焼夷弾に襲われ、木造ゆえに多

来日時会見で原爆投下を謝罪した名優

（「平和新聞」記事紹介）



くの人々が犠牲になったことは知らない。」

さらにイラク戦争について「アメリカの大統領はアメリカ人が何人殺されたかを語るだけだ。イラク人が何人殺されたかを聞くことがないのはなぜか。」「貧困に取り残された人々が絶望のためにテロに走ることを、アメリカは理解すべきだ」と語りました。

（「平和新聞」2020年7月25日付より）

【平和の会へのおさそいを。「平和新聞」購読も広げましょう】

- 幅広い年代からの加入を勧めましょう。ご家族・ご近所・友人・知人などにお声かけを
- 会費：月額500円、「平和新聞」（毎月5、15、25日発行）：月額520円（送料含）

